



# ちいさな天使



miki-mick

## ちいさな天使のおはなし

---

いいかい 耳をすませて よく お聞き。  
かわいいふたつのお耳ちゃんよ、おばばの話を聞いとくれ。

むかし むかし の ことじゃった。

まだ月と星とが、人間と話をしていた頃のことだよ。。。

ある村に みょうちきりんなお客がきたんだ。  
うす暗い顔をした、髪がぼさぼさの男さ。

靴もぼろぼろ、爪はまっくろ。  
いやな匂いもしてね。

だれも話しかけようとは しなかったさ。

おまけに 愛想もないときたもんだ。

食堂に どっかりと腰かけて、

「飯」

だってさ！

おかみさんも主人も 煙たがっていたけどね、  
出した食事を ペロリと残さず平らげるもんだから、  
毎日 せっせと こしらえていたさ。

あるときの ことさ。

その妙な男のところへ 小さな... そうさな、  
お前たちのような こども が話しかけにいったんだ。

もちろん 大人 は 止めたさ。

よしな、ってね。

まあ、止めるのは 大人の仕事みたいなもん だからね。

「ねえ、おじさん。

おじさんは どこから 来たの？

おうちは どこ なの？」

「おじさん、わたしはメイっていうの。

おじさんは？」

「おじさん見て！

ぼくの子犬。

かわいいでしょう？

ぼくに よく なついているんだ。

おじさんにも なでさせて あげる。」

でも 男は だんまり を きめこんで、コップの水を口から はなさないんだ。

あれじゃ、お話したくないって 言ってるような もんだよ。

かわいそうに、こども達は しょんぼり しちまって

鼻をグスグスする子まで 出てきたよ。

よっぽど お友達に なりたかったんだねえ。

「おじさん、  
おじさんは ぼく達のこと、キライなの？」

「なんでお話してくれないの？」

「ぼくの犬のことが キライなんだ。。」

あれあれ、とうとう こども達は わんわん 泣き出しちまった。

するとね、  
ずっとうつむいて 水を飲んでいた男が ふっと、目を上げたんだ。

こどもみたいに 透き通った きれいな目 をしていたよ。

その目が 泣きじゃくる こども達に合わさると

白い、小さな煙が上って そこにいた男のすがた が ふわりと消えたんだ。

もちろん みんな驚いた。  
こども達も びっくりして 泣きやんじまった。

後に残ったのは 空っぽの皿と、飲みかけの水。

みんなの頭も 空っぽに なっちまったけれど、  
食堂のおかみさん、テーブルを片付け始めたよ。

ソースまで きれいに 舐めとった皿。

なにかが皿の上で うごいたよ。

いやあね、虫かしら？

おかみさんが つまもうとしたときさ。

そこにいたのは

ちいさな ちいさな おんなのこ。

豆つぶくらいで、髪は夕焼けの色、目は青空の色をして、肌は大地の色だった。

怖いのかねえ、それとも寒いのか、 小さなからだをブルブル震わせていたんだ。

みんな その子が あんまりかわいいんで、しばらく じっと みていたよ。

最初にうごいたのは 子犬 だった。

おんなのこ に そっと 体温を 分けてあげたんだ。

するとね、

ずっと震えていた おんなのこ の空色の目から、

それはそれは きれいな 透明なものが ぽつり と こぼれたんだよ。

はじめは ぽつり。

ぽつ ぽつ と こぼれ落ちて

とうとう 土砂降りに なっちまった。

みんな困ってね、どうしたら泣きやんでもらえるか  
おろおろ し始めたんだ。

大人たちは やれ お前のかおが こわいからだ、とか なんとか言い合っている。  
しょうのない ねえ。

こども達はというとね、 このかわいいお客さん と お友達になりたくなってきたんだ。  
こそこそ耳打ちしあって 勇気をだして ちいさな おんなのこ に 話しかけたんだ。

「こんにちは！ あなたの名前は なんていうの？」

「...エル。私の名前はエルよ。」

さあ、こども達、  
外は雪が舞ってきた。

あたたかい布団で もう おやすみ。

小鳥の声で目覚めるんだ。

おばばも 眠くなってきた。。。。

ゆっくり おやすみ

――むかし むかし

まだ人間が月と星と話をしていた頃のこと――

## ちいさな天使

<http://p.booklog.jp/book/44186>

著者 : miki-mick

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/miki-mick/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/44186>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/44186>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.